



2020(令和2)年  
1月1日発行

Vol.81

# ELCO RADAR

Ecological Life and Culture Organization

公益社団法人 環境生活文化機構 季刊 エルコレダー



## CONTENTS



新春  
対談

鳥取県 平井 伸治 知事 × 本機構 広中 和歌子 会長  
小ささを、強みに

しっかりと機能した地域コミュニティが、人も妖怪をも豊かにしている …………… 1

《特別連載》環境と防災・減災④ 環境が変化すると新たな災害が発生する  
関西大学社会安全学部・社会安全研究センター長・特別任命教授 河田 恵昭氏 … 8

《連載》環境を見つめる人々 64  
立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏 …………… 11

《連載》エコ&ユニフォーム最前線 32 ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏 …………… 12

《報告》2019年度持続可能な社会づくり活動表彰 …………… 13



# 新春 対談

鳥取県 平井 伸治 知事 × 本機構 広中 和歌子 会長

## 小ささを、強みに

### しっかりと機能した地域コミュニティが、人も妖怪をも豊かにしている

新春恒例、広中和歌子本機構会長と全国の知事対談。今回のお相手は、ダジャレを武器に県のPRへと活躍する鳥取県の平井伸治知事です。鳥取県は人口が全国最少ながら、最近では子育てしやすい県として移住者も増えています。小規模を生かしたスピーディな決断で再生可能エネルギーの促進に取り組んでいます。そして人々を虜にする妖怪もゲゲゲのゲと増えています。

### ダジャレで県のPR



**広中** このたび鳥取県内をあちこち見学させていただきましてありがとうございました。自然は美しく、案内をしていただいた方々も心温かく、鳥取の皆さんの人柄の良さが伝わってきました。知事はお生まれも鳥取なのですか？

**平井** 実は、私は東京の秋葉原なんです。

**広中** 江戸っ子でしたか。

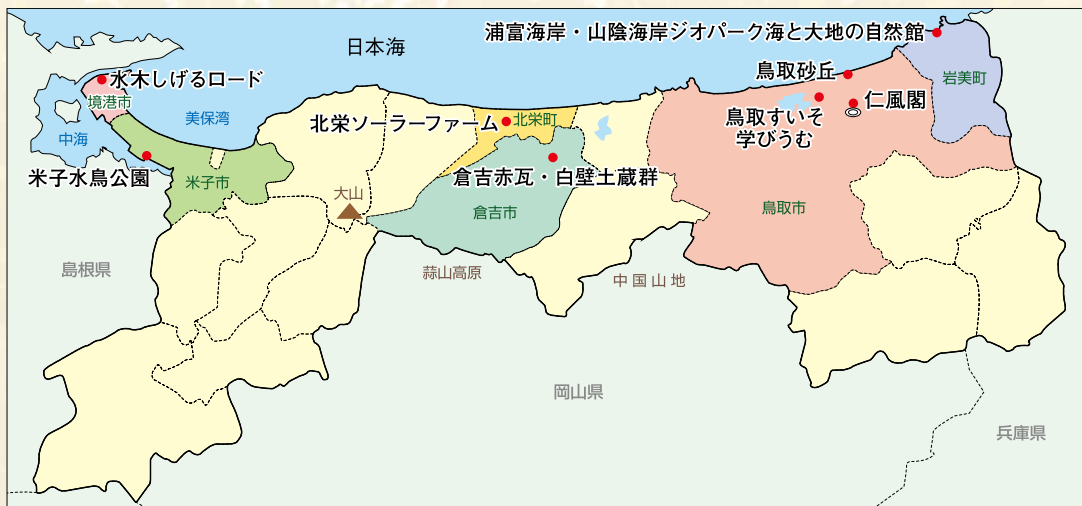
**平井** 全国 47 都道府県があり、47 人の知事がおりますが、その中で私が唯一のアキバ系知事とされています(笑)

**広中** (笑) 何年か前の「スタバはないけど、日本一のスナバ(砂場)はある」という洒落のきいた知事のお言葉に、本日はお話を伺うのを楽しみにして参りました。

**平井** 例のスターバックスの騒ぎですね。あれはスターバックスさんが 47 都道府県すべてに出店すると

いう戦略を打ち出して、残るはとうとう鳥取県だけになったのです。そこに、テレビ局の取材が来られました。テレビの全国放送は滅多に鳥取県が扱われないこともあり、せっかくの機会ですので、鳥取の自慢できることをしっかり売り込ませていただきました。ところが実際に話したPRポイントは全部カットされてしまい、唯一「スタバはないけど、日本一のスナバがある」というダジャレの部分だけが、ほんの 10 秒ほど流れたそうです。

それが SNS などであれこれと話題になりだしまして、そのうちに一気に拡散していったのです。ネット社会は本当にすごいですね。いわばマイナス・イメージなのに、今度はそれを逆手にとった「すなば珈琲」という店までできて、これが県外からも人がわざわざ訪れるような人気店になってしまいました。そこに今度は本物のスターバックスもいよいよ出店してきたことで、スタバとスナバのダジャレ合戦でますます



広中会長の視察先

話題が広まってしまったわけです。

**広中** 知事のダジャレが火付け役になったのですね（笑）鳥取県のポスターを見ると特産の松葉ガニを出して「蟹取県」、星に手が届きそうな美しい夜空から「星取県」など、知事ご自身がウィットに富んだ県のPRをしていらっしゃるのことが分かります。

鳥取県は芝の名産地でもあり、今夏の東京五輪のメイン会場である新国立競技場にも鳥取県産の天然芝が採用されたそうですね。

**平井** ありがとうございます。

## 水木しげるロード地域おこしの見本

**広中** そんな「日本一のスナバ」である鳥取砂丘を含め、今回の視察では県の西端から東端まで、鳥取の誇る美しい自然や文化を十分に堪能させていただきました。

最初に訪れたのは西端の境港市です。JR 境港駅の前では水木しげる記念館の庄司館長が出迎えてくださり、駅前から水木しげる記念館までの商店街「水木しげるロード」をご案内いただきました。そこ

には水木作品に出てくるユニークな妖怪のブロンズ像が立ち並んでいて、目を楽しませてくれました。

驚いたのは、ウィークデイの午前中なのに多くの人出があることです。道の両脇に並んでいる商店も結構客が入っていました。実を言うと、私はNHKの朝のドラマ「ゲゲゲの女房」を見ていまして親しみを感じていたのですが、あらめて水木しげるファンが多いことに驚かされました。

館長さんからは、水木しげるロードの成り立ちから、水木さんの生い立ち、戦争体験、戦後の売れない時代の苦労なども教えていただき、私は彼の人生そのものに興味を覚えました。実に過酷な体験をなさった方なのですね。

**平井** 水木先生は境港で育ちました。戦争中に徴兵されて、残念なことにラバウルで片腕をなくされたわけです。でもその時、これはいかにも水木先生らしいなと思うところですが、現地の住民の方々と出会われて、すっかりその人たちとの生活にとけ込まれてしまうのですね。戦争が終わっても、一緒に暮らさないかと誘われるほどで、実際ご本人も迷ったそうですが、結局、帰国したわけです。

### 視察レポート① 鳥取の大自然と 観光資源の保護

鳥取県のシンボルともいえる鳥取砂丘、日本一透明な海に数々の奇岩が浮かぶ浦富海岸。いずれも「ユネスコ世界ジオパーク」に認定された「山陰海岸ジオパーク」（京都府・兵庫県・鳥取県にまたがる）の中の代表的な景勝地である。

一方、鳥取県西部には、中国山地最大の霊峰・大山を中心とした美しい自然が広がり、ふもとはラムサール条約に登録された汽水湖の中海がある。

#### 視察1 鳥取砂丘

東西16km、南北2.4kmに広がる日本最大級の砂丘（写真1・2）。鳥取県を代表する観光地で、年間100万人以上の観光客が訪れる。中国山地の岩石が風化して砂となり、川の流れてのって海へと運ばれ、それが風に吹き上げられてつくられた。このような大きな起伏を持つ海岸砂丘は世界的にも珍しく、風紋と呼ばれる砂の文様、起伏に富んだ独特の地形が神秘的な光景をつくり出している。その地形や独特の植物群などは学術的にも貴重とされている。

#### 視察2 浦富海岸・山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

鳥取県東部には、浦富海岸という風光明媚な海岸線が連なっている（写真3）。「山陰海岸ジオパーク」を代表する景勝地で、その一角に建てられた施設がこの「山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館」（写真4）。同館の学芸員、太田さんからは日本海が形成された過程をご説明いただき、浦富海岸の美しさは地球規模での悠久の歴史がもたらしたものである、と実感させられた。

#### 視察3 米子水鳥公園

鳥取と島根にまたがる中海周辺は、山陰屈指の野鳥の生息地で、国内で確認された野鳥のうちおよそ42%の種類が観測される野鳥のサンクチュアリ（保護区）。その中海の東端に設けられたのが広さ約28haの米子水鳥公園である（写真5）。

中海の一部として2005年にラムサール条約に登録されたことによって、環境教育のイベント、来館者への対面解説、環境管理へのボランティアの参画など湿地管理が進められている。米子市のすべての小学生が、卒業までの6年間に一度はここを訪れて学ぶ自然環境教育の拠点でもある。



**広中** 敵襲からたった一人でジャングルを逃避行して、そこで妖怪にも出会われたと言っていますね。幼少の頃に、ばあやさんにいろいろと妖怪の出る昔話を聞かされたそうですが、それが下地としてあって、ジャングルの中でも何か妖怪と結びついたのでしょうか。

**平井** 境港には正福寺というお寺があります。ここが水木先生の菩提寺ですが、お寺の中に地獄の絵が掲げられていて、のんのんばあという、当時お手伝いに来ていたお婆さんが、そこに連れて行ってくれたそうです。そこで妖怪の世界を幼児体験したわけです。水木先生は絵を書くのはうまかったけれど言葉を話したすのは遅かったようです。ですから、自分の名前の「しげる」という発音もうまくできなくて「ゲゲる」と発声していたそうです。

**広中** なるほど、そこから『ゲゲゲの鬼太郎』になったのですか(笑)

**平井** もともとは『墓場の鬼太郎』という漫画でした。ところがアニメ化される時に墓場というのはどうも、という要請がありまして『ゲゲゲの鬼太郎』にしたそうです。つまり「しげるの鬼太郎」ということ

なんです(笑)

広中さんもご覧になられた「ゲゲゲの女房」、実は私どももドラマ化のための誘致活動をしたのです。これまで鳥取県が大河ドラマや朝の連続テレビ小説の舞台になったことはあまりなく、出版社さんからテレビ化の話聞いた時は、いけるかもしれないと思いました。残念ながらドラマのメイン舞台は東京の調布でしたが、水木しげる先生の世界を観光地としているのは鳥取だけです。必ずお客様はこちらに来るだろうと思っていたんです。これが幸いにも当たったんですね。

水木しげるロードは、最初に23体の妖怪のブロンズ像がつけられたところから始まりました。それが先生ご一家にとっては大変な喜びだったようです。故郷で自分が描いた妖怪をブロンズ像にして道沿いに設置して、そこを「水木しげるロード」とするので喜んで応援をしてくれました。

**広中** お金のかかることですからご寄付などなされたのでしょうか。

**平井** 当時は竹下内閣の頃で、「ふるさと創生事業」の1億円の使い道としてやることになったのです。当

## 視察レポート② 鳥取の文化遺産 と地域おこし

鳥取県には「鳥取砂丘コナン空港」と「米子鬼太郎空港」という2つの空港がある。誰もが知る人気漫画の主人公の名がつけられているのは、どちらも作者が鳥取県の出身であることから本人の協力を得て命名されたもの。境港市のように妖怪で地域おこしにつなげたり、鳥取県自体がコナンに代表される数々の漫画の聖地となったりもしている。一方で、倉吉市に見るように歴史的な資産を生かした町おこしも積極的に行われているのが特徴だ。

### 視察 4 境港市の水木しげるロード

境港は、人気漫画『ゲゲゲの鬼太郎』の作者・水木しげるの出身地。それにちなみ JR 境港駅から水木しげる記念館までの 800m ほどの商店街「水木しげるロード」は、懐かしい昭和レトロな街並みに沿って 177 体の妖怪のブロンズ像が立ち並び、駅も交番も、商店街の店も、外灯から公園まで、何から何まで妖怪づくしにして通りが丸ごとテーマパークと化している(写真6)。

全国各地から多くの観光客を集める「妖怪の町・境港」は、地域おこしの成功例として全国の自治体の注目も浴びている。



© 水木プロダクション

### 視察 5 倉吉市の赤瓦・白壁土蔵群

国の重要伝統的建造物群保存地区。江戸末期から昭和初期にかけて建てられた趣のある建物群が独特の街並みを形成し、伝統とモダンが溶け込んだユニークな町として人気観光スポットとなっている。(写真7)

倉吉市のかつての本町通りには、山陰特有の赤瓦の屋根と庇に吊るされた木の看板、京風の出格子といった典型的な商家が立ち並んでいる。その一本裏の通りには、同じく赤瓦の屋根に白い漆喰の壁の土蔵が小さな川沿いに連なっている。この町並みは、室町時代に作られた打吹城の城下町が原型で、江戸時代には鳥取藩家老の陣屋町として整備されたという。



### 視察 6 鳥取城跡に建つ白亜の洋館「仁風閣」

鳥取市を見下ろす鳥取城跡は、今は久松公園となっている。その公園内に建つ白亜の洋館がこの仁風閣(写真8)。明治40年、元鳥取藩主だった池田家の第14代当主・池田仲博が、当時の皇太子(後の大正天皇)が山陰地方を行啓する際の宿舎とするために建てた。建築費は当時のお金で約4万4千円。鳥取市役所の年間予算が5万円の時代だったが、この行啓をきっかけに鳥取市内のインフラ整備が大きく進んだ。



初は妖怪なんて辛気臭いものはいかなものかとか、商店街のイメージが悪くなる、とって反対されたそうです。

**広中** 何でも反対という人は、どこにでもいますよ。今では妖怪の像もずいぶん増えましたね。

**平井** 今は177体になります。鳥取は広中さんのおっしゃる通り、空気はいいし人間も優しい。食べ物もカニに和牛などと美味しい物がいっぱいあります。そして人間の数は確かに減っていますが、妖怪は逆に増えています(笑)

**広中** それから旅行者も増えましたね。

**平井** おかげさまで。実はこの水木しげるロードは、地域おこしの見本になっているんです。以前はいわゆるシャッター街でした。そんな商店街がいまは全部の店舗が開いています。これはまさに水木先生の方だと私たちは感謝しています。ブロンズ像の寄付もあり、まだ妖怪は順調に増加中で、最近では会社の銘を入れた妖怪ブロンズ像もできているんです。会社のPRにもなりますからね。そういった意味でも、官民連携の街づくりとして成功した例ですね。

## 発想の転換から生まれた 米子水鳥公園



**広中** 境港の次は中海にある「よなごみずとり米子水鳥公園」に

うかがいました。ここでは、一年を通して水鳥や他の生き物の営みが観察できると伺いました。

**平井** 冬季の今ごろ公園周辺には、コハクチョウやカモ類など約1万羽の水鳥が飛来します。クロツラヘラサギというくちばしがヘラのようにになっている希少な鳥もいまして、開園以来、ほぼ毎年飛んできます。ここは環境省のご協力をいただき、平成17年にラムサール条約に登録していただきました。

**広中** 今の上皇陛下ご夫妻も行幸されたようですね。

**平井** ええ、平成25年に米子で全国植樹祭があったんです。両陛下は非常に生き物に対してご造詣が深くいらっしゃいますし、生き物に対する愛情も強くお持ちですので、県勢内容の説明をする会場を米子水鳥公園にさせていただきました。もちろん水鳥の観察もしていただく予定でした。

当日、事前に私がまわってみますと、指導員の方が「今日はカイツブリがいますから、ぜひそれを両陛下に見ていただこうと思います。あそこに見えるのがその巣で、望遠鏡もそこに合わせておきました」と言うのです。カイツブリというのは夫婦仲の良い水鳥の代表で、水草を集めて作った巣を夫婦で守ります。ところが私が見てみるといけません。指導員の方は「どこか散歩に出かけたのかもしれない」と言うのです。私はせっかくセットしたのに残念だと思

### 視察レポート③ 鳥取の自然を大切に したエネルギー対策

豊かな自然を鳥取県は貴重な資産と考えている。だからこそ、自然を損なわない、環境への負荷が小さいエネルギーの開発には他県にない積極的な取り組みを見せている。現在、全電力に占める再生可能エネルギーの比率は37%と全国平均16%の倍以上になっており、それを象徴する取り組みを視察した。

#### 視察7 ほくえい北栄ソーラーファーム

太陽光発電と農業を両立したソーラーシェアリングとして国内最大級の規模になる。農家の高齢化により耕作放棄地が増加する中、太陽光発電事業に取り組む(株)エナテクスが農業法人を設立し農業と太陽光発電の兼業を始めた。農地面積は約1万7,000㎡。もともとは良質の芝を栽培していた土地で、今はビルの屋上緑化などに使われる常緑キリンソウを栽培している。

事業化には、太陽光パネルの下でも農作物の育成に十分な日射量が確保でき、しかも作物の収穫量が基準値を上回らなくてはならないという農地法などの厳しい規制があった。これをクリアするために日射量の調査や農作物の栽培試験を繰り返し、太陽光パネルを地上2.5mの高さに設置することで農地の一時転用が許可された。太陽光パネルを設置する架台が通常より高いため、強風や地震に耐えられる構造にしなければならない(写真9)。その分、通常の架台と比べてコストは5割ほど高くなってはいるが、合計で4,200枚の太陽光パネルから105万kWhの電力が得られ、売電収入は年間4,000万円ほど、農作物の収入が年間200~300万円ほどとなり、採算が見込める状態になっている。



#### 視察8 鳥取すいそ学びうむ

太陽光発電で得た電力を水素エネルギーに変えて蓄える水素ステーション、水素エネルギーで動く燃料電池自動車や、水素エネルギーを電力として活用したスマートハウスを一体整備した、全国発の水素エネルギー実証&体験型学習施設。写真10は、コンテナハウスを改造したパビリオンで、ここでは水素エネルギーについての様々な体験学習ができる。例えば自転車をこいで発電し、その電気で水を分解して水素を発生させて、その水素でドローンを飛ばすといった体験もできる。子どもたちの利用も多く、数々の実験に驚きの声をあげているという。



いながら、両陛下への県勢の説明をし終えまして、いよいよ望遠鏡で水鳥を観察していただく段になると、カイツブリは巣に戻っていたんです。ご覧になられた両陛下も喜ばれました。まあ水鳥も両陛下に合わせてずいぶんと気を使ってくれたのでしょう(笑)

実はかつてこの中海では、干拓するか否かという大変な論争がありました。ちょうど長崎の諫早干拓と同じように干拓推進派と反対派で争われている中で工事が始まりました。すると、まだ埋め立てる前ですが、そこに水鳥たちが集まりサンクチュアリができて上がったのです。そこで今度は保全しようという運動が高まりまして、まさにコペルニクス的転回で、この水鳥公園ができたのです。

## 東日本大震災をきっかけに メガソーラーを誘致

**平井** 実はこのことが私どもの環境関係でいうと面白い展開になってくるんです。水鳥公園の周りにはすでに農地用に干拓してしまった広い土地があったのですが、さすがに戦後はそんなに農地もいらなくなっていました。干拓はしたものの使い道に困りまして工業団地や住宅団地として分譲することにしたのです。ところが買い手がつかない。この遊休地は、私の3代前の知事からずっと引き継がれてきた地元の大問題でした。

そうこうしているうちに2011年に東日本大震災が起これ、世の中の関心が再生可能エネルギーへと向かいました。当時の鳥取県は電力消費県であって生産県ではありません。水力発電はあったのですが、火力発電もなく、もちろん原子力発電なんてありません。そこでこれからは再生可能エネルギーを開発して、消費するだけではなく自前の電力である程度まかなえるようにしようと、政策を180度転回したわ



鳥取県 平井 伸治知事

けです。その切り札となったのが、当時ブームとなってきた太陽光発電で、それを誘致できないだろうかと思っていたのです。そこでソフトバンクの孫正義さんたちがメガソーラーをつくろうと言い出したのです。その時早速、私どものこの遊休地を活用してはどうですかと申し上げたんです。

**広中** 実際の日照量は分かりませんが、山陰、日本海側というどうしてもイメージとして、太陽光発電に向いてないように思われませんか？

**平井** 確かに山陰というところのイメージがちです。そういう誤解を解くためにも私どもで調べましたら、米子のあたりは東京と日照量は変わらないのです。意外だと思われるようですが、山陰という言葉のイメージが歪めているんですね。

**広中** 山陰の「陰」という字が悪いですね。

**平井** ですからAとBのような記号なのだと考えればいいんです。山のA側と山のB側の違いなのだと。そこで暗いイメージを払拭しなければ思っただけです。

孫さんのご協力を得て、問題の干拓地に53haのソーラーパークができました。これは本州で最大です(2014年2月竣工当時)。これは孫さんにもお伝えしたのですが、この工業団地と住宅団地は自慢ではないけれど1haも売れていないと(笑)ですから全部使っていいですよとお伝えして、全部契約したのです。そういう経緯で本州最大のソーラーパークができたわけ。これも発想を転換することでできた電力施設でして、他にも今回、広中さんが訪問なさった北栄町の太陽光発電や日本海の風を利用した風力発電、水素エネルギーを使った自動車とスマートハウスの実証なども同じことが言えますね。

## 農業や環境と共存した 再生可能エネルギーの導入

**広中** 水素で走る車にも乗せていただきました。県職員の方が運転してくださったのですが、乗っているほうとすれば全く違和感はなく快適でしたね。排気ガスが出ないので、後はそのためのインフラを整えて普及する時代が早く来るように期待しています。

もう一つ、北栄町のソーラーファームも拝見させていただきました。地上2.5mの高所にソーラーパネルを設置して、その下を農地として使っているというユニークな取り組みでした。このやり方は確かに電力と農産物の両方が得られるので一挙両得ともいえますが、コストもかかりそうですし、安全性にもより配慮が必要と感じました。栽培している常緑キリンソウは育成にほぼ手間のかからない植物だそうですが、行政の規制の壁により必要以上の施設整備の義務もあるとうかがいました。

**平井** 再生可能エネルギーというのは、まだまだ打ち破らなければならない壁もありますし、それから生かしようによっては地元にも色々なメリットをもたらしてくれるところもございまして。今の北栄町の太

陽光発電は、農地の上にソーラーパネルを置くわけですが、これには農林水産省の規制がありまして、農地法でおおむね2.0m以上の高さにしなければならないわけです。その下にトラクターのような農業用機械を入れて使えるようにということですが、畑作の種類によっては、そんな機械を入れる必要がないものもあります。本当は農業と両立できるはずなのに、役所の机上の想定で規制を入れるというのはちょっとナンセンスですね。私どもとしては、その辺は国に改善を求めていかなければならないと思っています。その一方で、いま太陽光発電や風力発電で全国的に問題になっているのは、逆の環境問題が起きかけているということです。

**広中** どういうことですか？

**平井** 例えば景観のことであるとか、風力発電で生態系に影響を与えているとか、太陽光発電を山の斜面を埋めつくすように設置して土砂災害の原因になったというケースも聞きます。また、パネルの中にはきちんと処理をしなければいけない成分も含まれているところがあり、後々に環境負荷となりかねないものに対する規制が弱いんですね。余計な規制をしているところがある一方で、必要な規制がなされていないところもあるわけです。

**広中** 将来を予測して、災害・環境保全対策も考えながらやらなければならないということですね。

**平井** 鳥取県には大山という大きくてきれいな山がありますが、そのふもとにソーラーパークがこの度開設されることになりました。これはカナダ系の会社ですけれど、そこと地元関係者が環境保全の協定を結びました。それは事業収益を積み立てていって、環境保全のために、将来撤去する時の費用の財源にするというものです。

**広中** 今後生ずるかもしれない問題に備えておくのですね。

**平井** 現在、鳥取県の再生可能エネルギー設備導入量は100万kWとなりまして、県が目標としていた92万kWをはるかに超えています。いま鳥取県の再生可能エネルギーの比率は37%と、全国平均16%の倍以上へと東日本大震災以降は一気に増やしています。ですから量はかなりできています。100万kWになりますと、県内の住民生活用の電力はまかなえます。再生可能エネルギーだけでそういうレベルに今なっています。これからは環境との共存というのもテーマにしながら、この再生可能エネルギーについて考えていかなければならないと思います。

水路などでタービンを回す小水力発電もあります。再生可能エネルギーが普及する中でこれを農業用ダムにつけました。農水省とかけ合いました。やった事例です。農業水利の保全のためには、年々、農家がある程度負担しなければならないわけです。ですから電力を生産することで、水利保全のための農家負担をその収益でまかなうことができます。

このようにやりようによっては再生可能エネルギーというのは、地元の中で本来ある資源というものを

生かすことにつながります。『里山資本主義』という著書でおなじみの藻谷浩介さんも、これからはむしろ農村に資源がある、とおっしゃっています。食料とエネルギーと水ですね。そういう意味では従来の貨幣経済的な大都市中心の経済原則とは違った新しい経済原則というものが生まれてくるのではないのでしょうか。私たちも今、その辺のところを追求しています。

## 市民やボランティアが守る鳥取砂丘

**広中** 鳥取といえば砂丘というぐらい有名ですが、最後に鳥取砂丘にも訪問しました。馬の背というところまで登りまして、ちょうど太陽の沈んでいくところを鑑賞させていただきました。平日にもかかわらず大勢の方がいらっやして、やはりあそこは鳥取で一番有名どころなのだと思います。

**平井** 鳥取砂丘は戦中、陸軍の教練場だったので。実際に歩かれて大変だったと思いますけれど、足腰を鍛えるのには良いところですよ。裸足で歩くのもおすすめで、裸足で歩いた方のための足洗い場もあります。

ところで、この砂丘がこんなに有名になったのには、有島武郎が関係しています。この地に来られた折に「浜坂の遠き砂丘の中にして さびしき我を見出でけるかも」という歌を詠みまして、そのひと月後に情死しているんです。当時の人気作家ですから、今でいうとワイドショーが飛びつくような大スキャンダルになりました。「浜坂」というのは当時の鳥取砂丘の地名で、実はこの一首が砂浜を「砂丘」という言葉で表現した最初になります。以後、「砂丘」と呼ばれるようになりました。今では観光地としてすっかり有名になり、最近では外国の方も観光にやってくるようになりました。



公益社団法人環境生活文化機構 広中 和歌子会長

**広中** 私がうかがった時も外国の方々が大勢いらっ  
しゃいましたね。

**平井** 砂丘は鳥取県の顔でもあります。観光地とし  
ても大きな役割を果たしています。それで平成 20 年  
に鳥取砂丘を守り育てる条例を作りました。当時、  
砂丘に落書きをする人もいて問題になりました。私も  
当時、散歩をしていると向こうからゴルフボールが  
飛んできて結構怖い目にも遭いました。サンドウェッ  
ジの練習をしていたんですね。条例でこれらの行為  
を禁止しました。それから、砂浜に棒が残ると危な  
いのでロケット花火のようなものも禁止にしました。  
そして県民の皆様に呼び掛けて砂丘を守る活動もし  
ています。

**広中** 私たちが訪れた時は本当にきれいで、ゴミ一  
つありませんでした。

**平井** 砂丘のゴミ拾いであったり、草むしりもしてい  
ます。鳥取砂丘の降水量は非常に多く雪も降るので、  
保全是草との戦いでもあります。砂丘条例を作っ  
てから観光客の草むしりツアーというのも始まりまし  
た。これには毎年何千人も参加するんです。今はそ  
ういう時代なんです。地元市民もボランティアもみん  
なで環境を守ろうとし、それに価値を見出す、そ  
ういう時代になってきたんです。

**広中** 鳥取砂丘につながる浦富海岸も拝見しまし  
たが、同様にゴミは見当たらなかったですね。当初は  
遊覧船に乗って海から陸を見る予定でしたが、当日  
は波が荒かったので海岸線をドライブしました。複  
雑な地形の海岸線へと打ちつける白波と遠くの水平  
線が実に美しい海岸でした。

**平井** 「山陰松島」とも言われ、島崎藤村の「松島は  
松島、浦富は浦富である」という名言を残されたと  
ころです。松島に匹敵するという意味で、日本海の荒  
波と風雪がああ美しい海岸を彫り上げたのですね。

実は環境省でも調べていただいたのですが、全  
国の海岸の調査の中で宮古島と並んで最高透明度  
が 25m という一番透明度の高いのがあのエリアな  
のです。その透き通った海に惹かれて、最近マリ  
ンスポーツを楽しむリピーターも増えてきましたね。  
遠浅の砂地では海水浴を楽しまれたり、磯場ではダ  
イビングをされたり、サーフィンやカヌーの人も高  
まっています。

## 人口最少県が全国屈指の移住県に

**広中** 私たちが浦富海岸を訪れたときに立ち寄った  
レストランの経営者が、浦富の海でサーフィンをやり  
たいがためにわざわざ他県から移ってきたと言っ  
ていましたね。鳥取県は人口は減少しているの  
でしょうが、一方でその方のように移住なさって来られる  
人もおられる。移住者の事情は様々でしょうが、や  
はりそこには鳥取県ならではの魅力を感じていると  
いうことですね。

**平井** 鳥取県の人口は 10 年ほど前に 60 万人を割  
り込んでしまっていて、全国でも最少です。そこで移

住対策を積極的に進めてきました。その施策も年々  
バージョンアップさせています。その効果も出てき  
まして、近年は 2,000 人以上の人が鳥取県に移住し  
てきています。これは全国でも屈指の数字です。

その内訳を見ますと、7割が 30 代以下な  
のです。特に東日本大震災を経て、日本人の考え方は着  
実に変わってきたのだと思います。生き方にもっとゆ  
とりが持てて子どもも育てやすいとか、家族ごと地  
域にとけ込めるところで暮らしたいとか、そう願う人  
が増えてきています。

鳥取県はいまでも隣近所といった地域コミュニ  
ティがしっかりしているんです。公民館も多くありま  
して、地域コミュニティの拠点として十分に機能してい  
ます。小さなコミュニティだからこそまとまりがあ  
って力を発揮できるんですね。このように地域のコミ  
ュニティ機能が充実して新しい方の生活もサポートで  
きている、そういうことが魅力で移住してこられる  
方々も多いと思います。

2016 年に鳥取県中部地震があった際も、移住し  
て来られた人たちが東日本大震災のときの経験を生  
かして、お年寄りを避難させたという地域もありまし  
た。こんな風に、移住してきた人たちが地域に積極  
的に関わり、役立とうとしています。

**広中** 美しい自然が豊富にあり、地域のコミュニ  
ティも温かく充実している、小さいけれどそういう県  
なのですね。今回はそんな魅力的な県を広範囲に拝  
見させていただきありがとうございます。

**平井** 放浪の俳人・尾崎放哉も鳥取の生まれですが、  
その放哉の句に「とんぼが淋しい机にとまりに来て  
くれた」という句がございます。そのように自然と生  
きて環境を楽しみ味わうことのできる、鳥取県はそ  
ういう日本でも数少ないところだと思います。なにしろ  
人口は減っていますが妖怪は増えているのですから、  
鳥取は絶対に良いところなんです(笑) 美味し  
いカニもいっぱい獲れるので、蟹取県と称させてい  
ただいていますが、ぜひ蟹取県へウエルカニ(笑)

**広中** ぜひ(笑) 本日はお忙しいところ貴重なお話  
をありがとうございます。

鳥取県知事

**平井 伸治** (ひらい しんじ)

1961 年、東京都生まれ。1984 年、東京大学法学部卒  
業。同年、地方自治の現場を志し、自治省に入省。そ  
の後自治省、兵庫県、福井県で勤務。地方行政の実務  
や政治改革・地方税財政基盤強化等の制度改革に取り  
組む。この間、1995 年 9 月から半年間米国に派遣され、  
米国連邦選挙委員会、カリフォルニア大学バークレー  
校政府制度研究所客員研究員。1999 年、鳥取県総務  
部長。2001 年、全国最年少で鳥取県副知事。2005 年、  
総務省に移り、選挙部政党助成室長。2006 年、自治  
体国際化協会ニューヨーク事務所長として米国勤務。  
2007 年、鳥取県知事就任。現在 4 期目。



# 環境が変化すると 新たな災害が発生する

関西大学社会安全学部・社会安全研究センター長・特別任命教授 河田 恵昭氏

地球環境変化は、私たちの手の届かないところで起こるものもある。氷河期などがそうである。しかし、近代になってからの変化に関しては、大半のものが私たちの社会活動に起因していると言ってよいだろう。そして、必ずと言ってよいほど災害環境の変化、正確に言えば新たな災害を伴った。このような環境や災害の悪化に対して、私たちはどう対処すればよいのか。それが手遅れにならないような対策を講じなければならない。

## 1. なぜ環境文明と環境文化がないのか

なぜ、このような見慣れぬ用語が唐突に紹介されたのか。実は、災害文明と対になって災害文化という言葉があるのに対し、環境文明や環境文化という言葉は広く流布せず、これが問題であることを示そう。

「土手の花見」という言葉がある。江戸幕府が河川の堤防を築造するとき（当時は堤防の普請と呼んでいた）、同時に堤防の天端（一番高いところ）に桜の苗木を植えた。これが大きくなると、花見見物のために堤防の上を多くの人が歩く。堤防を街道にしたとき、夏は日陰を作ってくれる。そして、堤防のそばに神社を創建する。祭りがあるごとに、人びとが堤防の上を歩いてくれる。すべてにおいて、堤防の盛り土が締め固まり、強くなるという効果が期待できる。このようにして、わが国の多くの河川堤防が普請されてきた。江戸幕府が賢かったのは、桜が大木になると、一斉に伐採して、代わりに桜の苗木を植えたのである。台風が来襲し、川が増水して大風が吹くと、土でできた堤防は水を含んだスポンジようになる。そして、桜の大木は暴風を受けて、根元から倒れるとそれが破堤につながるからである。

かつて災害調査でオーストリアのウィーン市の危

機管理局を訪ねた時、『ドナウ川に沿って大木の並木があるが、あれは伐採しないのですか』と尋ねた。そうすると相手は、『あなたはなぜ、そのようなことを知っているのですか。実は定期的に伐採しています。ストームが吹くと、突然倒れて堤防が壊れることが起こるからです』と答えてくれた。堤防上の大木を定期的に伐採するという災害文化が両国に存在していたのである。困るのは、河川堤防上の桜並木が名所になっていて、大木になった桜を絶対に植え替えさせていただけなのである。しかし、手入れしていない桜の大木は、剪定していない枝が広く空間に広がり、暴風を受けると幹が大きく揺れる。しかも、深く広く根を張っているので、増水して土手が軟弱な状態になれば、根こそぎ倒れて、破堤が起こりやすいことは誰でも理解できる。

このような災害文化がはぐくまれていた時代に、科学に基づく工学と理学が中心となって、災害文明をもたらしたのである。治水ダムの建設、耐震機能や液化化対策の強化、高潮や津波防波堤工法の開発などは災害文明の成果である。災害文明と災害文化の一例を表1に示す。

ところが、いわゆる環境問題は、近代文明の発達とともに急激に顕在化したことからわかるように、環境文明や環境文化が育ついとまがなかったと想像される。しかも、わが国の場合、公害に限定しても被害はまず、地方で発生し、残念なことに全国的な

災害文明	災害文化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード防災</li> <li>・公助中心</li> <li>・量的カバー</li> <li>・警察、消防、自衛隊</li> <li>・社会インフラ</li> <li>・気象庁、国土交通省</li> <li>・図上演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト防災</li> <li>・自助・共助中心</li> <li>・質的カバー</li> <li>・NPO、ボランティア</li> <li>・復旧・復興</li> <li>・防災教育(文科省)</li> <li>・防災訓練</li> </ul>

表1 災害文明と災害文化の一例

問題にはなりにくかった。水俣病やイタイタイ病がそうである。しかも、災害のように遭遇すればすぐに命を失うという急変する事態でなかったことが大きい。ここに、環境文明や環境文化が育たなかった原因がある。このことが、わが国の環境行政の対応が遅れる原因になったといっただろう。

## 2. 衰退する災害文化に必要なパラダイムシフト

河川が氾濫の危険があるとき、市町村長は避難指示・勧告を発令するが、それに従って指定避難所に避難する住民が激減している。対象の地域住民が1万人を超えると、その0.3%、すなわち住民千人のうち避難する人は3人以下という惨状である。なぜ、このような低率になってしまったのか。それは避難するという文化が衰退し、無くなってしまったからである。

もともと、川の堤防は不連続であった。戦国の武将であった武田信玄が開発した霞堤かすみでいはその典型である。増水した洪水を堤防の不連続部から水田に誘導し、河川の水位が低下すれば川に戻す、というシステムである。稲は、冠水が1日以下なら被害を受けず成育を続けることが経験的にわかっていた。しかし、人口が多く集まる都市域で氾濫が起ると困るから、不連続部をなくす堤防普請も出現する。そうすると、左右両岸のいずれが大切かによって堤防の高さが変わる。典型的には木曾川の堤防がこれに当てはまる。左岸は徳川幕府の親藩である尾張藩（名古屋）であるのに対し、右岸は外様大名の美濃藩（岐阜）であり、右岸堤防の高さは、左岸堤防より3尺（約90cm）低かった。そこで、洪水氾濫がいつも岐阜県側で起こるようになり、困った住民は集落の周囲に輪中堤を造成し、浸水を防ぐようにした。これと同じ構造の堤防は、オランダのアムステルダムやロッテルダムにみられる。ダムとは堰（堤防）のことで、アムステル川をせき止めたのが由来である。

したがって、洪水氾濫が起るともっとも安全な場所は堤防の上ということになり、避難場所になったわけである。氾濫が起れば高所に避難するという習慣は、津波に対しても同じであって、現在も静

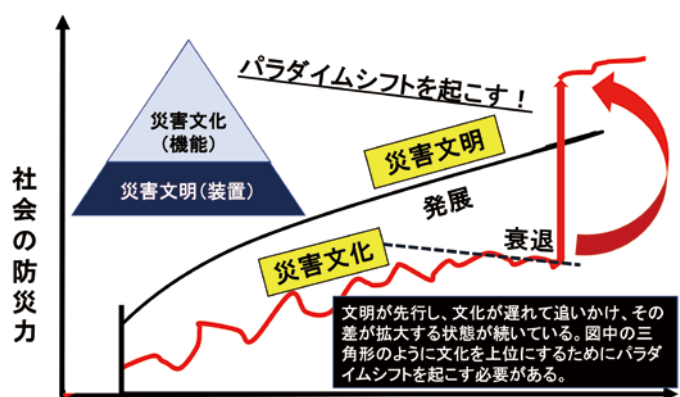
岡県には命山いのちやまがあり、津波来襲時に駆け上がる丘が江戸時代に造成されている。

このように洪水や津波が氾濫すれば高所に避難するという文化は、江戸時代から続いていたと考えてよい。そして、明治維新政府になってからは、明治中期に頻発した洪水氾濫災害の激化対策として、1896年に連続高堤防方式をフランスから導入した。河川の上流に降った雨は、できるだけ早く下流の海まで流すという、まさに樋といのようなものを想定していたのである。だから、大河川で洪水が頻発するようになると、真っ先に計画されたのは放水路であって、1900年竣工の新淀川（毛馬閘門から下流の現在の淀川）や1933年の荒川放水路（岩淵水門から下流の現在の荒川）がその代表で、合計50を超える河川で建設された。この連続高堤防方式による治水の基本は現在も変わっていない。

河川が治水事業の進捗とともに安全になる一方、避難するという災害文化が廃れてしまった。これを正確・迅速・詳細な災害情報だけで回復するのは不可能である。まさに、災害文化のパラダイムシフトが必要になっているのである。図1はその模式図である。防災対策は災害文明と災害文化によって実現しなければならないのだ。

## 3. 災害対策基本法と環境基本法

自然環境が悪化すれば、新たな災害が発生する。このように環境と災害の関係は表裏一体であるといえる。そうであるなら、両者に関する法律の趣旨や



1959年伊勢湾台風以後の経過年数  
(高度経済成長期からデフレ経済期に移行)

図1 衰退しつつある災害文化をパラダイムシフトによって、災害文明の上位に持ってこなければならないことを説明する模式図

目標などはかなり重なる部分があるはずである。果たしてどうなっているのか。災害対策基本法は1961年に施行された。その理由は、1945年枕崎台風災害から1959年伊勢湾台風災害まで、毎年のように大災害が発生した。この15年間の平均犠牲者数は2,365人/年である。そして、1995年阪神・淡路大震災以降、東日本大震災を除けば160人/年と10分の1以下に減少している。

この減少に災害対策基本法が果たした役割は大きい。問題は、この法律は、被害が発生しない限り対策ができなく、その対策も原形復旧が原則である。ところが、地球温暖化の影響によって、スーパー台風が発生して上陸し、最大風速、総雨量や雨量強度などの極値が毎年のように更新されるという災害多発・激化時代にあっては、改良復旧を目指さなければ、既往の防災構造物は風水害に対して脆弱になるという欠点を有する。つまり、犠牲者を減らすことが大変困難であるという状況に直面している。また、首都直下地震や南海トラフ巨大地震が起これば、国難災害となってわが国が衰退する恐れにも直面しているが、有効な対策が打てないという状況が続いている。

筆者は、1988年に減災対策の必要性を訴え、これが阪神・淡路大震災の復旧・復興で用いられ、2015年には東日本大震災の教訓から、減災の具体的内容として、時間ファクターを含む縮災対策を主張してきた。事前の予防力と事後の回復力を大きくすることで、被害全体を少なくするという考え方である。これを国難災害に適用しようとするれば、日本政府には防災省がなければならない。なぜなら、現在、防災に関して表2のような多岐の問題があるが、縦割り行政の中で、事前の予防力と事後の回復力には限界があり、どうしても複数機関の連携と調整が必須であるが、これが困難な状況が続いている。しかも、わが国では、歴史上、災害で国が潰れた、という経験がないため、“そのようなことは起こらない”という

バイアス（偏見）が広く存在している。これでは災害対策基本法は災害時の対処療法を示すにすぎなくなっている。

それでは、1993年に施行された環境基本法では、どのような問題があるのだろうか。端的に言って、水俣病が公式確認から60年を経過し、環境省があるにもかかわらず、全面解決には至っていない。これは、結局、日本国憲法において、国民の基本的な人権の中に環境権が認められていないからであろう。その理由は、つぎの事例でわかる。国連のSDGsにおけるSustainable Developmentは、持続的開発と訳されている。しかし、環境基本法では、これを持続的発展と訳している。つまり後者では環境保全と経済発展が調和的でなければならないという概念が採用されている。国際的にはこのような但し書きは、現在は通用しない。環境保全は絶対必要で、相対的に必要ではないのである。

しかも、災害対策基本法も環境基本法も一般法であり、性善説を採用している関係上、災害の発生や環境悪化が必ず先行し、関係省庁の特別法で対処せざるを得ない。つまり対策が後手後手となるわけである。たとえば、2019年台風19号の水害で家を失った多くの老人世帯にとって、生活再建は絶望的であって、SDGsの目標の第一である“貧困をなくそう”に最初から違反することが起こっているのである。SDGsは、この目標のためにできたようなものであるという真の事情を理解する必要がある。

防災関係機関等	緊急性の高い革新的事業の内容
内閣府防災	防災政策の推進(各機関の調整と連携)
内閣官房	国民運動として国土強靱化を推進
国土交通省	改良復旧型治山・治水と安全都市100年計画
水防団	タイムライン防災の推進
気象庁	気象・海象観測とシミュレーションの高度化
消防庁	広域災害対応可能なICSの確立
消防団	コミュニティ防災の推進
総務省	基礎自治体の危機管理能力の開発
文部科学省	防災教育の推進と災害文化の育成
日本赤十字	ボランティアの組織化と運用
外務省	防災の主流化によるSGDsの普及・推進
国際協力機構	国際NGOの育成と防災情報の海外発信
関連学会等	国難災害の縮災対策の具体例の提案

表2 日本政府が防災政策に関して進めなければならない緊急かつ重要な事業内容

# アカコッコに会いたい! いざ三宅島へ

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授 萩原 なつ子氏

昨年の秋、友人たちとひさしぶりに野鳥観察を目的に宮城県の三宅島を訪れた。2011年、東日本大震災で大きな被害を受けた気仙沼市大島への支援イベントを行うために訪れて以来である。野鳥観察のために三宅島によく通っていた動物ものまねの故四代目江戸家猫八さんとデビュー間もない二代目江戸家小猫さんのステージが懐かしく思い出される。

三宅島は2000年の夏に大噴火を起こし、全島民が避難を余儀なくされるという大変な経験をしていた。5年後に避難指示が解除され、三宅島に帰島後、全力で地域の再生・復興に取り組んできた。島民はその時の自分たちの姿と被災した東北の人々の姿を重ねていた。また多くのボランティアが三宅島の復興のために駆けつけてくれたという経験から、「何か支援を!」ということになり、村をあげて実現したチャリティイベントだった。

三宅島は噴火によって森林が壊滅的な被害を受け、そのために、植物や鳥の生態系にも大きな影響が及ぼされた。当然のことながら、森林の再生は島民が日常生活を取り戻すためにとても重要であった。あれから20年。まだ立入禁止区域があるが、三宅島は元の緑豊かな島を取り戻しつつある。

下船後、まだ眠い目をこすりながらいつもお世話になっている宿に向かった。ここにはヤマガラが遊びに来てくれる。彼らのお目当てのひまわりの種を手のひらにのせて待つ。最初は警戒しているがすぐに慣れて、種をついばんでくれる。癒される瞬間である。

三宅島は野鳥の生息密度が非常に高く、およそ260種の野鳥が観察されている。鳥と人の距離が近いことから、別名“バードアイランド”と呼ばれている。その野鳥観察の拠点となっているのが、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館。ここではレンジャーが常駐していて、展示物や映像を使って野鳥や森、海の生き物についてわかりやすく教えてくれ

る。また、自然を知り、親しむための自然観察会も行っている。三宅島といえば、村の鳥にも選定されているアカコッコ。アカコッコは日本固有種で国の天然記念物にもなっている。レンジャーの方にアカコッコに出会えそうな時間、場所の情報をいただき、翌朝、アカコッコを探しに宿を出発。最初に聴こえてきたのは独特の低音「ウッ ウーウ」というカラスバトの鳴き声である。カラスバトも天然記念物である。真っ黒の大きなハトで、黒光りしていて、凛々しい。じーっとしていたら、頭上をパーッと飛び去った。1時間ほど歩き回って、やっとその時がきた。アカコッコが2羽、水飲み場にいるところを発見。胸からお腹にかけて濃いオレンジ色で、黄色いくちばし、目の周りが黄色く縁取りがある可愛い鳥である。

アカコッコが観察できてよかった、よかったと満足して宿に戻ると、女将さんが「台風15号が接近しているので、明日の船で戻ったほうがよい」という。地元の方のアドバイスは重要なので、翌日、船に乗り込み台風に追いかけるようにして東京に戻った。

ところで、三宅島の島民の善意は、地震で足元から崩れてしまっていた気仙沼大島小学校の二宮金次郎さんの修復に活用されたことを加えておこう。金次郎さん、安心して本を読んでいるらしい。今年一年、みんなが安全に、そして安心して暮らせますように!



アカコッコ館の展示

# 欧州のユニフォームに見る サステナビリティ事情

ダイセン株式会社 記者 富永 周也氏

欧州発の「サステナビリティ（持続可能性）」は今、どうなっているのか——2019年11月5日～8日、ドイツ・デュッセルドルフで「A + A 2019 国際労働安全機材・技術展」が開催されました。労働安全・衛生に関する世界最大規模の総合展で、最新のユニフォームや安全用具・用品、サービスが集結します。当社は4回目となる視察ツアーを実施しました。前回展（2017年）に比べ、SDGs（持続可能な開発目標）、サステナビリティは日本でも浸透しつつあります。先進国であるEU圏や米国の大手メーカーの展示はどう進化しているのか、興味を持って会場に入りました。

日本でもおなじみになった国連のカラフルなロゴは、ほとんど見かけません。その代わりに、ブースで「SUSTAINABILITY」「SDGs」と表示する企業が増えています。「サステナビリティな商品とはどんなものか」と訊ねると、すかさず見本帳を渡されました。ページを開くと、認証マークがびっしり。「この製品に使っている素材はすべて～の認証を受けている」「私たちのオーガニックコットンは…」「縫製はこの国の認定工場で…」。あちらでの“サステ”は、素材の調達方法やトレーサビリティを高いレベルで保持していることが必須条件のようです。

エンドユーザーへのアピールも盛んです。ドイツの老舗メーカーのBPは再生ポリエステルなど環境配慮素材を使った「B プラス・グリーン」を出展していました。ペットボトル型のタグを付けてリサイクル効果を可視化しており、さらに内側にはペットボトル何本分でウェアができているかを示す絵表示入り。タグが取れてしまっても、着用者は「着るたびにエコを意識することができる」という工夫です。ノルウェーのヘリーハンセンは、染色で水を使わない技術の採用や、「エコテックス」「ブルーサイン」などの認証を

取得、製品に表示することでサステナビリティに取り組む姿勢を打ち出していました。

「いくら環境配慮の素材を使ってもすぐに捨ててしまえば意味がない」。デンマークのクリッパーコーポレートはこう指摘します。本国では鉄道や警察、税関など幅広い納入実績を持つメーカーですが、ウェアとしての付加価値を高めるという方針です。もちろんそれだけ高額になりますが、「長く着られる」ことは、衣服の普遍的な価値です。昨今のファストファッション・ブランドの低迷ぶりを見ると、低価格だけを売り物にする商品の限界を感じずにはられません。

斬新な製品や画期的な技術を前面に訴求する場というより、それらをいかに活用して安全で快適な労働環境を作っていくべきか。A + Aという展示会にはそんな印象を受けます。「今後も“デジタル化”“人体への影響”“サステナブル”は引き続き重要なテーマ。もっとも、People matter（人が大切）という根本的なテーマは変わっていません。人が中心にあり、健康であることが何よりも大事だということを訴えていきます」と主催のメッセ・デュッセルドルフは説明します。彼我の差はあっても、これは共通項として覚えておきたい言葉でした。



環境配慮素材を使った「B プラス・グリーン」。ペットボトル18本分を使用していると表記している（2019年11月19日付「繊維ニュース」）

# 2019年度持続可能な社会づくり活動表彰

本表彰は、持続可能な社会づくりの推進を目的に、持続可能な社会づくりに資する地域社会・国際社会への貢献、資源循環、環境教育及び生物多様性保全活動等の企業・団体が実施する活動の中で特に優れた活動を顕彰し、その活動を全国に広く発信することで、民間の環境活動を活性化し、個人、そして企業・団体、地域といったコミュニティの価値観と行動の変革をもたらすことを目指しています。

## 持続可能な社会づくり活動表彰概要

### ■表彰の種類

#### 環境大臣賞

持続可能な社会づくりに資する活動の中で特に優れた活動を実施している企業または団体

#### 公益社団法人環境生活文化機構会長賞

持続可能な社会づくりに資する活動の中で優れた活動を実施している企業または団体

#### 公益社団法人環境生活文化機構理事長賞

循環型社会構築に関する3R活動、または本機構の事業に関して、環境保全に多大な功労のあった企業または団体

### ■審査基準

- ・持続可能な社会づくりに資すること。
- ・継続的、かつ一定頻度の活動であること。
- ・波及効果または啓発・教育効果があること。
- ・将来にわたり持続するビジョンを有すること。
- ・一定の面的広がり、または地域性のあること。
- ・持続的な発展に向けた工夫や独創性があること。
- ・地元自治体、地域住民、NGO 等との連携が図られていること。

### ■審査委員会

委員長 広中 和歌子 元環境庁長官・公益社団法人環境生活文化機構 会長

委員 竹内 恒夫 名古屋大学大学院環境学研究科 教授

委員 星野 智子 一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事

委員 森 高一 NPO 法人日本エコツーリズムセンター 共同代表

## 1. 受賞活動紹介

2019年度持続可能な社会づくり活動表彰として、環境大臣賞1者、機構会長賞2者、機構理事長賞2者が受賞されました。

### 環境大臣賞

#### プリンス電機株式会社「地域・社会に寄り添う環境教育と広報『スリムエコ®活動』」(神奈川県横浜市)

照明メーカーの持続可能な社会を目指した環境・社会啓発活動。「スリムエコ®講座」として、独自の環境教育講座を創り、地域・社会と協働し、サプライチェーン、学校や団体、市民や企業へ実施。さらに、多様なマスコミへ地域や自社の環境情報を提供、独自の「環境コミュニケーション広報」を構築し、環境・社会啓発の報道記事を誘引している。自社事業の照明知識、ISO（環境・品質・労働安全衛生）認証や横浜型地域貢献企業である自社の特徴、従業員の能力を活かし、自社らしく地域と社会に寄り添った身近なテーマで幅広い層・分野へ情報発信することで、社会貢献とすべてのステークホルダーから継続した信頼につながる三方よしの活動である。



### 公益社団法人環境生活文化機構 会長賞

#### econnect project (北九州市立霧丘中学校 特別支援学級)

#### 「エコをテーマに人とつながる『econnect project (エコネクト プロジェクト)』」(福岡県北九州市)

中学校特別支援学級のESD・SDGs活動。障害を持っている子どもたちは、社会や人との関わりに消極的な傾向にあることから、社会や地域の方々と環境改善や地域貢献に取り組むことで生徒の課題を改善・克服し、誰もが住みやすい地域の形成へとつなげていきたいと考え、「eco(環境)」をテーマに様々な人と「connect(つながる)」活動として「econnect project」を実施。国際機関、地域社会、教育、NPO・NGO、行政、企業の6つの関係機関と協働し、被災地の特産を使用したチャリティー販売・ペットボトル募金活動、竹工作・間伐材 My 箸づくりなどのワークショップ提供、食育をテーマにし

た日米交流等、「被災地支援」「社会貢献」「国際交流」の3つの分野で14のプロジェクトに取り組んでいる。



#### もおか環境パートナーシップ会議「もおか環境パートナーシップ会議の環境保全活動」(栃木県真岡市)

市民・事業者・行政の3者の協働による環境保全活動。工業地域と市街地との間に多くの自然を残す栃木県真岡市の「自然ふれあい園“大久保”」で、月一回、定例の里山林保全活動を実施。市民の憩いの場所となるよう下草刈り、倒木・枯死木処理等を行うことによって、長年良好な状態の里山林を維持。また、オオタカなどの希少な鳥類も生息しており、森林と野生動物の共生が行える環境整備にも努めている。里山林等での活動以外にも、地球温暖化問題やCOOL CHOICE啓発のための環境学習会の開催や、市内の不法投棄の現状確認、マイバック

の持参率調査など多岐にわたって環境活動全般を行っている。



### 公益社団法人環境生活文化機構 理事長賞

#### 株式会社アキュラホーム「間伐材を活用した「木のストロー」普及活動(ウッドストロープロジェクト)」(全国各地)

住宅事業者による間伐材の「木のストロー」の開発、普及活動。西日本豪雨の被害を視察した環境ジャーナリストが、土砂災害の一因に適切な間伐が行われておらず森林管理が不十分であることを問題視し、間伐材の有効活用が必要だとして企画した。木造住宅を手がける自社事業の性質上、木を活かす・守る活動の一環として、木のストローの開発に着手し、世界で初めて木材を薄くスライスし、斜めに巻く工法で量産化に成功した。2019年5月のG20大阪サミット、農林水産省、環境省等の会合で採用され高い評価を得ている。間伐材の利用を促進し、持続的な森林保全と、廃プラスチック問題の解決に

よる環境貢献を目指す活動である。



**一般社団法人日本繊維機械学会繊維リサイクル技術研究会 学校制服リサイクルワーキンググループ  
「廃棄学校制服のアップサイクルによる衣類ごみ減量化啓発活動」(京都府京都市)**

学校制服 3R をテーマにした啓発授業のモデル事業。京都市内の中学校にて地球環境問題・地域のごみ問題の啓発授業を実施し、さらに、リユース活用できない廃棄予定の学校制服を回収し、生徒のアイデアをもとに、福祉作業所等の協力を得て実際に筆箱やキーホルダーケース等のアップサイクル製品を製作した。生徒達は再生製品の物作りに関わっていくことでリサイクルの仕組みを学び、そこで得た知識と経験を基に環境問題に積極的に取り組むようになった。今後は環境授業やアップサイクルシステムの製品の製造ノウハウを含むごみ減量化事業モデルを全国に周知・広めることで、将来の衣類系一般廃

棄物の減量化への貢献を目指す。



**2. 表彰式**

2019年11月26日、KKRホテル東京(東京都千代田区大手町)において、持続可能な社会づくり活動表彰式を開催しました。

当日は、来賓の環境省総合環境政策統括官 中井徳太郎氏よりご挨拶をいただき、広中和歌子審査委員長から各受賞者の講評がありました。

続いて受賞者に表彰状が贈呈されました。その後、受賞者のプリンス電機株式会社 代表取締役社長 寺嶋 之朗氏、econnect project (北九州市立霧丘中学校 特別支援学級 教諭) 小川 亮氏、もおか環境パートナーシップ会議 副会長 矢吹 勝治氏、株式

会社アキュラホーム 次世代建築事業部長代行 梶島 哲也氏、一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会 学校制服リサイクルワーキンググループ 代表 木村 照夫氏から謝辞をいただき、受賞活動のご紹介をいただいた後、記念撮影の後、懇親会を行いました。

最後に、受賞者の皆様の今後ますますのご活躍をお祈りしますとともに、表彰式にご参加いただいた皆様へ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



左から 虫明理事長、日本繊維機械学会 木村グループ代表、もおか環境パートナーシップ会議 矢吹副会長、プリンス電機 寺嶋社長、econnect project 小川教諭、アキュラホーム 梶島部長代行、環境省 中井統括官、広中会長

**季刊 エルコレーター vol.81**

発行者：公益社団法人 環境生活文化機構 発行日：2020年1月1日 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目20番10号 サンライズ山西ビル6F  
TEL：03-5511-7331 FAX：03-5511-7336 http://www.elco.or.jp E-mail:elco.inc@trust.ocn.ne.jp